

受講番号 19046 学校名 宿毛高等学校 氏名 武政 佳三

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 2年生 生徒数 26名
 科目名 英語Ⅱ 単位数(授業時数) 4時間 使用教科書名 NEW STREAM II (増進堂)

クラスの様子・特徴

本校内では英語が好きでないクラスと嫌いでないクラスのちょうど中間に位置する生徒たちである。教科書の音読は概ね出来るが、語彙力が不足している。私語に走りやすいクラスなので、わかりやすい授業に努めなければならない。

問題の確定

高校2年生として望まれる語彙力が今のところ不足しているが、語句の意味さえわかれば教科書を理解できる生徒は多い。

予備調査

A 授業の観察	B 生徒による授業評価	C 学カデータ
勉強は苦手だが、高校卒業の資格はほしいのが多数の生徒の本音と思われる。音読の練習では、細切れにすると大部分の生徒は読める。ただし、個人的に教科書を読ませると自信がない。語句の意味さえ分かれば教科書の英文は概ね理解できる。	出席者23名中、英語が好きは0名、どちらでもないが12名、嫌いな科目が7名、授業がなければ良いが4名である。なお、英語を話せるようになりたい生徒が15名(65%)、授業でテストに出そうなところを重点に18名(78%)であった。	定期テスト一学期中間平均:40.8(6/1) 一学期末平均:47.5(7/6) 単語テスト(20点満点) 第一回平均:4.2(5/7) 二回平均:6.3(5/14) 三回平均:8.7(6/11)

リサーチ・クエスト

語彙力と学習意欲が十分でない生徒たちが、英和辞書さえあれば高校の教科書程度の英文が理解できるようになり、同時に簡単な英会話も出来るようになるにはどうしたらよいか。

仮説・実践・検証

仮説1 二学期中間テストから各定期テストで辞書持ち込みを許可すれば、毎時間辞書を持参する生徒が多くなるのではないかと。	実践1 英語科の許可を取り、二学期中間テスト以降の定期考査に辞書の使用を認める旨を生徒に伝える。不正防止のため、試験中に利用できる辞書は学校で準備する事も同時に伝え、書庫にある辞書の冊数を点検し、学校所有のゴム印を押す。一教員で運べる辞書は最大で35冊程度のため、教務に相談して試験の時間割を調整してもらう。背中に20冊背負い、15冊を前に抱えて、階段も上れることを確認した上で準備完了。中間と期末で実践。	検証1 入学時に英語科の指導で全員に辞書を準備させているにもかかわらず、一学期にはごく少数の生徒しか持参していなかった。二学期には仮説の実践と同時に平均して2週に一度の割合で持参者の調査をすると、添付資料に示すとおり、26名中17~18名が持つようになった。
仮説2 毎時間辞書を引くことに慣れさせると語彙力と英文理解力が少しずつ高まるのではないかと。	実践2 定期テストで辞書が利用できるとしても、一つ調べるのに3分以上も時間がかかれば、30分で10個しか調べられないし、適切な意味をつかめるとも限らないのだから、効率よく辞書を引く練習のため出来るだけ毎時間辞書を持参するように説得する。授業中に新出単語だけでなく、大部分の生徒が意味を知らないとと思われる語句とその品詞を板書して、一斉に調べさせる。順番に発表させ、調べ方が間違っていれば再度辞書を引かせる。	検証2 8月の研修で総合問題は良くないという講義があったので、総合問題を和訳に変更した。他の問題は一学期と同様の難易度とした。辞書を利用させると平均点で15~20点の上昇が見られた。中間テストでは、どの程度効率よく調べられるか調査するために、単熟語の問題を30問出題した。平均点62.5と高くなったので、期末では単熟語を10問前後にしてみたが、平均点がさらに上昇した。他の問題の難度を少々高める必要を感じる。
仮説3 毎時間10分程度の会話練習を続けられれば、簡単な口頭表現はできるようになるのではないかと。	実践3 毎時間10分程度を目安に簡単な会話表現を作り、内容をALTにチェックしてもらった後、週に一度ALTにも来てもらって実施。週4時間のうち3回を口頭練習に使い、残り1回を書く練習に当てる。二学期中間テスト後にALTの都合で授業に参加してもらえなかったため、不安定になったため、CDを利用した会話表現に切り替える。	検証3 成績には反映させないことにすると定着が良くない。印刷物を見ながらの口頭練習では多くの生徒が言えるが、何も見せずに練習させると期待したほどは口に出せないし、2週間後の復習では忘れていた部分が多くなる。小テストを実施しても平均が20点満点中6点程度である。

研究の成果

単語や文法の学習は苦手で、定期テストの期間中でも十分に学習に取り組めていない生徒が多い中、徐々にでも学習の方向へ向かわせることを考えた上で、試験中の辞書利用可能を仮説に設定した。一学期の難易度とほぼ同じテストで、平均が15~20点上昇したので、いくらかの成果は見られるのではないかと判断している。辞書を引きながらも一応自力で得点したのであれば良いとしたい。卒業後に大学の一般教養で英文を読まされたり、インターネットで海外から購入した商品の英文で書かれた説明書を読まなければならないときに、辞書があれば何とか出来るレベルにまで到達することが目標である。

今後の授業改善の課題

理想は、ほぼ全員が辞書を持ち込んで、例文等を参考にしながら最も適切な意味を選択できることである。同時に、生徒たちが苦手な文法事項も辞書には書かれているので、辞書さえあれば教員は必要ないレベルに達することである。しかしながら、大部分の生徒が辞書のまず最初に出てくる意味をとらえたら、その時点で辞書を閉じてしまう段階から抜け出せない現実がある。まずは全員に辞書を持参させることから始めたい。

リサーチについての問合せ先: 職場電話 0880-63-2164 電子メール